2024 年度の教育活動に対する学校評価

自己評価　2024 年 3 月 15 日

学校法人博学園 須津幼稚園長　後藤みはる

学校法人博学園 須津幼稚園 学校関係者評価委員会長　髙田浩之 印

1　幼稚園の教育目標　『げんきな子　がんばる子』

2　本年度の重点目標　「日々のエピソードから子どもの心を読み取る」

3　自己評価結果とそれに対する学校関係者評価結果

2025 年 3 月 27 日

（※評価点は、A(十分に成果があった)・B(成果があった)・C(少し成果があった)・D(成果がなかった)の数値で示すこと。）

評価対象	評価項目	自己評価 評価点	自己評価 幼稚園としての反省と改善	学校関係者評価委員会 評価点	学校関係者評価委員会 意見
保育計画	幼保連携型認定こども園として０歳児から就学前までの乳幼児の成長を見通した計画がなされていたか	C	特に問題はなかったのですが、各学年の年間計画がマンネリになる傾向が見られ始めました。来年度は今年度の子どもの姿から計画を立ててられるように、学年の先生とよく話し合って進めていきたい。	C	マンネリは、子どもを注意深く見られない。計画に不備が出るなどの支障をきたす恐れがあります。そうならないように意識改革をしていきましょう。
指導の在り方	一人ひとりの心に寄り添うかかわりができたか。	C	日々のエピソードを記録により、一人一人の心の動きに気付くことが多くなった。しかし、子どもの思いを尊重しすぎて、逆に成長を阻害していたこともあり、反省すべき点です。	C	子ども一人一人の成長を促すために心に寄り添うことであることを、保育教諭はいつも意識して子どもを見つめてほしいですね。
	集団生活の中でお互いに刺激を受けることで心が育っていく過程を見守ることができたか。	B	友達とのかかわりの中で、子どもが成長していく姿がよく見られました。友達に励まされたり、認められたり、悔しい思いをしたりして心が育っていくことを確認しました。問題が起きた時はお互いの気持ちをしっかり伝えあうことで解決した経験もありました。	B	大人になっても、人は人とのかかわりの中で生きていきます。その最初の一歩の幼稚園教育をこれからも大切にしてほしい。
研修	教師の資質向上の為に園内研修を企画したり、園外の研修会に参加する機会を確保していたか	A	園外研修はオンラインか直接講義かを選択することができ、研修を受けやすくなりました。 職員から母の日父の日の保育の取り組み方 特に片親の場合についてと、園長からプールの着替えや身体測定時に男女を分けることについての議題が上がり、全職員で話し合う。考え方や方策について共通の意識が確認できました。	A	今の時代だからこその変化が求められることについては、職員で共通意識を持つことが大切ですね。
子育て支援	子育て支援の為に未就園児親子への親子教室をゆり組で年間 9 回開催した。	A	今年度は、参加子どもが歩ける「ほっこりキッズ」か歩けない「ほっこりベビー」かでグループ分けをして行った。離乳食の時期の親子が参加している「ベビー」の時に、栄養士による離乳食講座を１回開催。その他 成長発達に合わせた内容で行うことができた。	A	子育て支援の方法を、毎年工夫しながら改善していく姿勢を評価します。